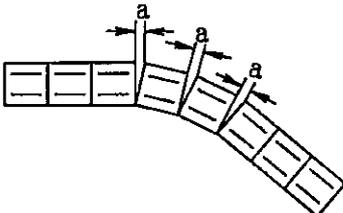
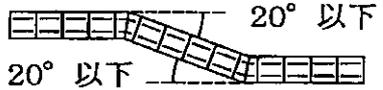
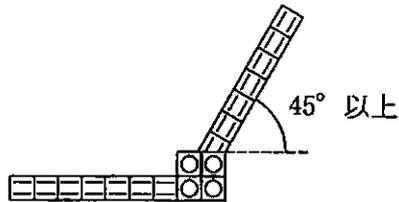
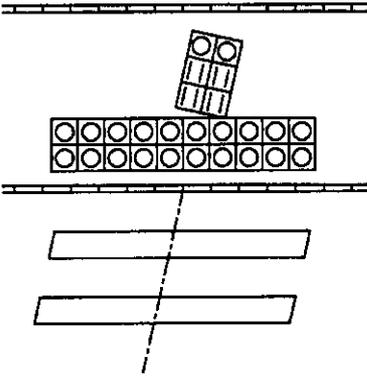
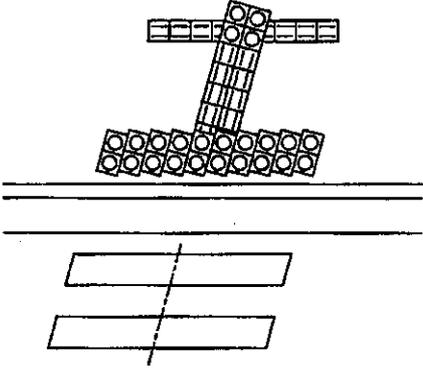


【参考資料1】

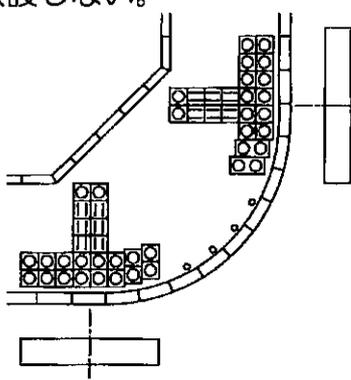
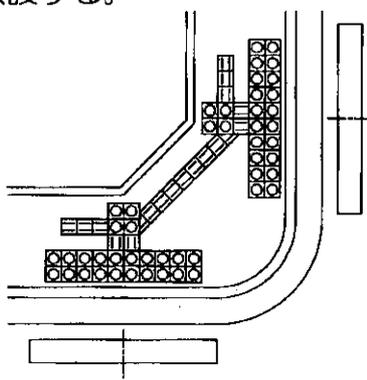
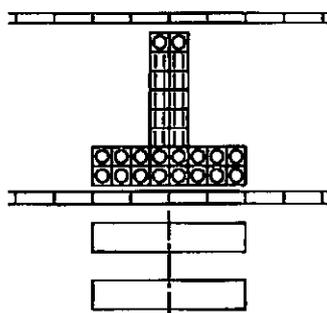
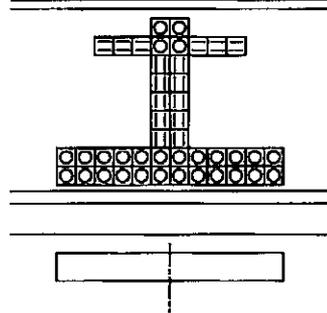
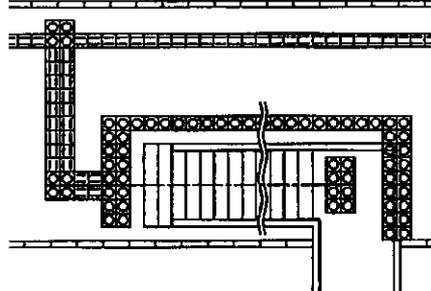
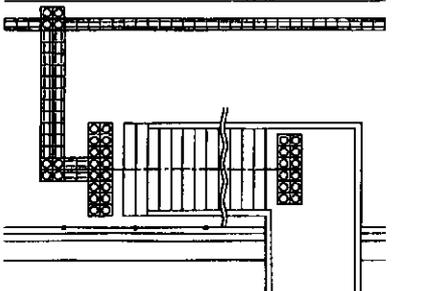
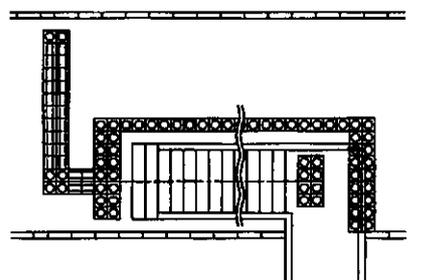
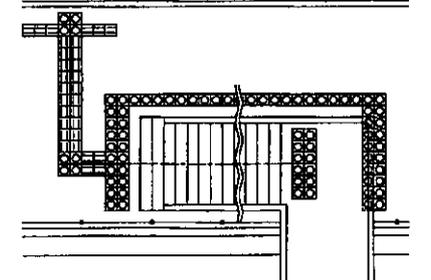
「道路の移動円滑化整備ガイドライン」と本基準との異なる部分の比較表

建設局において、独自に視覚障害者並びに歩行訓練士へのヒアリング調査や歩行実験等を行い、そこで得たデータ・意見に建設局の工夫を加えより良い整備となるよう、ガイドラインと異なる敷設方法を採用した。

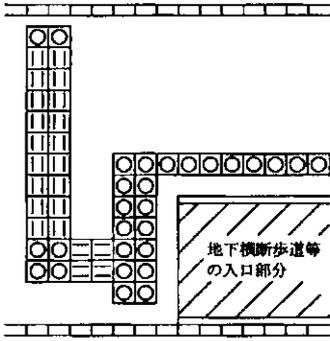
比較表（その1）

項目		ガイドライン	本基準
屈曲部の設置	歩道の直線部		
	歩道の分岐部	<p>aは10cm以下とすることが望ましい。</p>	
横断歩道口部の点状ブロックの向き		<p>道路に平行に敷設する。</p> 	<p>横断歩道の向きに平行に敷設する。</p> 

比較表（その2）

<p>連続誘導がない場合の交差点</p>	<p>歩道の向きを案内する線状ブロック 2方向の横断歩道口の視覚障害者誘導用ブロックをつなぐ線状ブロック</p>	<p>敷設しない。</p> 	<p>敷設する。</p> 
<p>連続誘導がない場合の歩道の途中の横断歩道口での、歩道の向きを案内する線状ブロック</p> <p>(歩道の向きを案内する線状ブロックの敷設については、横断歩道口以外に、横断歩道橋、地下鉄・地下横断歩道、バス停留所部においても同様である)</p>	<p>敷設しない。</p> 	<p>敷設する。</p> 	
<p>横断歩道橋</p>	<p>連続誘導がある場合</p>	<p>横断歩道橋の周囲に、回避させるための点状ブロックを敷設する。</p> 	<p>左記のような点状ブロックは敷設しない。</p> 
<p>連続誘導がない場合</p>		<p>階段下に入り込まないように周囲に設ける柵が設置できない場合は、ガイドライン同様、点状ブロックを敷設する。 【柵が設置できない場合】</p> 	

比較表（その3）

<p>中央分離帯・交通島部</p>	<p>狭い中央分離帯にも視覚障害者誘導用ブロックを設置する。</p>	<p>幅員2.0m以上の中央分離帯に視覚障害者誘導用ブロックを設置する。</p>
<p>地下鉄・地下横断歩道</p>	<p>地下鉄・地下横断歩道などの出入り口の周囲に、回避させるための点状ブロックを敷設する。</p> 	<p>左記のような点状ブロックは敷設しない。</p> 